HP 掲載用

研修報告書　№17

所　属：昭和医科大学病院
氏　名：後藤　慈音
研修先：高北病院

2025 年 9 月の 1 か月間、佐川町立高北国民健康保険病院で地域医療研修を行いました。大学病院と全く異なる地域ならではの貴重な診療活動や地域貢献を経験できましたので、自分が感じた地域病院の特性や魅力を共有します。今後、地域医療研修に来られる先生方の病院選択や進路等の参考にしていただければと思います。

私は、高知県に来たのは今回が初めてで、どのような 1 カ月が待っているのか心躍らせながら病院に来たのを鮮明に覚えています。第一印象として驚いたのは、患者さんの年齢層の高さでした。75 歳程度はまだ若い方で、地域の高齢化率の高さを実感する一方、年齢相応には到底見えない健康な高齢者が都会に比べて多いように感じました。地域の医療を支える病院の現状を少し垣間見た気がしました。

普段の研修内容としては、大きく外来・検査業務と病棟業務、そして地域医療研修の醍醐味である地域連携の 3 つに大別されます。外来では高血圧や糖尿病を中心とする生活習慣病やその他の Common Disease の外来管理を見学し、初診の患者さんには病歴聴取から診察、治療までを上級医の指導のもとで行いました。検査では臨床検査技師について染色や血型判定、超音波検査を自身の手で行い、診察面でも手技面でも大きく成長することができました。

病棟では、超急性期から急性期の患者さんを管理している大学病院とは異なり、主に慢性期管理の患者さんが多く、患者さんが退院できる病態を目指すだけでなく、今後どのように過ごしていくのかを見据えたケアを徹底して心掛けている印象を受けました。自宅環境や家族の生活状況も含めて考慮し、療養先決定や在宅医療導入を進めていく地域医療のプロセスをチームの一員として経験できたと思います。プロセスの中で、実際に患者さんがどのような環境で過ごしているのか、療養できているのかを知るには訪問診療と訪問看護などの在宅医療が欠かせません。地域連携では患者さんの住宅を訪問し、点滴処置や薬剤の処方、ケアを中心に行いました。病院や薬局などの医療アクセスが難しいところや電波が届かないなど住環境は様々ですが、それでも自宅で過ごしたい患者さんの意思を尊重し、それを実現する医療の提供体制が整っているのは、高知県の地域医療の特色であると思いました。

地域連携の一環で、「百歳体操」という月に一度健康な高齢者を対象に行われる体操や出前講義を通して、一次予防的な側面でも地域の方の健康に配慮した取り組みを行っていることも印象に残りました。また、参加されている医療スタッフの方や参加者の方同士で、医療者と患者としてではなく、地域の住民として分け隔てない会話をしている姿を見て、まる

で自分が昔からここにいたような温かさを感じました。そういった姿勢や心がけは、大学病院で業務に忙殺され余裕のない自分が一番見習わなくてはいけないと痛感しました。

あっという間の研修期間を終えて、地域医療の現状や特色を肌で感じ、慢性期療養に対する医療の知見が高まった貴重な機会でした。疾患だけにとらわれず、今後の生活も踏まえた“患者主体の最善の医療の提供”をできる医師の偉大さを改めて実感し、自身もそのような医師を目指していけるよう学びを糧に今後の研修に励んでいきたいと思います。

最後になりますが、一ヶ月貴重な経験をさせていただき先生方をはじめ、医療スタッフの方々、また佐川町の皆様方にこの場を借りて心より感謝を申し上げます。